

この地にある神々に尊敬されます

げんぜりやくわさん

親鸞聖人の書かれた現世利益和讃という十五首の歌があります。七首目に「なもあみだぶつをとえると、この地にある神々や地より下にある神々が尊敬します。影と形のように、夜昼常に護ります」とあります。

私が気にもしない、道端の道祖神や八百万の神々がいつも私を見守ってくれているのですが、私達は神々や仏陀に対して恐れを抱いています。たとえば、神社でもらうお札や御守りなどを捨てる時に、ごみとして出したらバチがあたるのでは？と思います。また、お仏壇に名字の違うお位牌や過去帳を安置したら、仏様が喧嘩するという人もおられます。また、弁才(財)天は女性の神様で、恋人と参拝すると、やきもち焼いて別れさせられるという迷信があります。どれも神々に本当ですかと聞いたのではないので、「そんなことないよ」「いいがかりだ」と言われているのではないのでしょうか。

お仏壇はお浄土を表現しています。お浄土には弥勒菩薩や観音菩薩や阿弥陀如来がおられます。親鸞聖人も法然上人もおられます。名字が違う人達がみんな同じ世界におられます。お浄土で戦争が起こるなら、それはお浄土ではありません。私達は名字や人種や価値観の違いにとらわれ、良いとか悪いとか決めつけて、自分で恐れを作り出しているのです。

仏様が喧嘩するのではなく、私という人間が喧嘩するのです。やきもち焼く私という人間がいます。それを神々に責任転嫁しているだけです。

なもあみだぶつを唱える私達は、神々に対して正しいものの見方ができているから、神々が有難うと尊敬されるのです。合掌

写真は興元寺の隣(高野川左岸)に
新設開校した京都市立八瀬小学校

